

# ドラマシーンにできること

## ドラマシーンの手順

- ①シーン表を振る
- ②登場人物や判定を選んで、シーンの演出を行なう。
- ③回復判定・調査判定・感情判定のいずれか一つを選んで判定を行う。好きな特技で判定。

## そのほかにできること

### 情報やアイテムの受け渡し

シーンに登場しているキャラクターは、持っているアイテムや、知っている他の人の【情報】を譲渡・交換することができる（自分の【心の闇】を、自分から渡すことはできない）。

### アビリティの使用

- ▶指定されたタイミングで使用可能。同じサポートアビリティは、1サイクルに一回しか使用できない。
- ▶効果で「自分がシーンプレイヤーなら」と指定されている場合、シーンプレイヤーしか使用できない。

### 再訓練

アビリティの指定特技を変更を行うことができる。

### ゾーキング

GMに、周囲の状況がどうなっているか聞いたり、NPCに質問したりできる。

## 回復判定

- ▶同じシーンに登場しているキャラクター一人（自分も可能）の【生命力】か【正気度】を1点回復する。
- ▶同じシーンに登場している自分以外のキャラクター一人にカウンセリングを行い、未公開の【狂気】一枚を無くすことができる。カウンセリングを行うには、未公開の【狂気】の内容が分かっている必要がある。

## 調査判定

- ▶好きなキャラクター一人を選ぶ。そのキャラクターの持つ【情報】（【居所】・【秘密】・【精神状態】）を一つ獲得する。

## 感情判定

- ▶同じシーンに登場しているキャラクター一人を選ぶ。自分と目標は、互いに1D6を振り、お互いに対する【感情】をランダムに獲得する。プラスかマイナスかの属性は、各自が自由に決めてよい。
- ▶すでにそれぞれに対する【感情】を持っているキャラクターが新たに、同じ相手に【感情】を獲得した場合、それを上書きする。ただし、それが感情判定を行った本人だった場合、上書きしないことを選ぶことができる。



ルール  
サマリ

## 重要なルール

### 再挑戦

自分の【好奇心】の分野の特技を指定された判定の場合、【生命力】か【正気度】1点減少することで、一度だけサイコロを振り直すことができる。

### スペシャル

自分の【生命力】か【正気度】が1点回復。

### ファンブル

【狂気】を一枚獲得。

## 感情を持ついる相手にできること

「情報共有」「戦闘乱入」「感情修正」

## シーン表

2	血の匂いがあたりに充満している。事件か？ 事故か？ もしや、それは今も続いているのだろうか？
3	これは……夢か？ もう終わったはずの過去が、記憶の中から蘇ってくる。
4	眼下に広がる街並みを見下ろしている。なぜこんな高所に……？
5	世界の終わりのような暗黒。暗闇の中、何者かの気配が蠢く……。
6	穏やかな時間が過ぎていく。まるであんなことがなかったかのようだ。
7	湿った土の匂い。濃密な気配が漂う森の中。鳥や虫の声、風にそよぐ木々の音が聞こえる。
8	人通りの少ない住宅街。見知らぬ人々の住まう家々の中からは、定かではない人声や物音が漏れてくる……。
9	にわかに空を雲が覆う。強い雨が降り出す。人々は、軒を求めて、大慌てで駆け出していく。
10	荒れ果てた廃墟、朽ちた生活の名残。かすかに聞こえるのは風か、波の音か、耳鳴りか。
11	人ごみ。喧噪。けたたましい店内BGMに、調子っぽずれの笑い声。騒がしい繁華街の一角だが……？
12	明るい光に照らされて、ほっと一息。だが光が強いほどに、影もまた濃くなる……。

## 狂気

- ▶恐怖判定に失敗すると【狂気】を一枚獲得。
- ▶【狂気】のトリガーが発生すると、【狂気】を公開して、顕在化する。効果発動。
- ▶顕在化した【狂気】一枚につき、攻撃アビリティ使用時のダメージが1点上昇する。
- ▶顕在化した【狂気】が、自分の【正気度】の値を超えると、そのキャラクターは錯乱状態になる。
- ▶【狂気】の山札がすべて無くなった場合、ゲームは終了し、バッドエンド表を使用。

## 錯乱状態

- ▶戦闘中、プロットがランダムになる。
- ▶攻撃と戦闘からの自発的な脱落以外の行動は、【生命力】か【正気度】を1点消費しないと、行なうことはできない。

## 感情表

1	共感（プラス）／不信（マイナス）
2	友情（プラス）／怒り（マイナス）
3	愛情（プラス）／妬み（マイナス）
4	忠誠（プラス）／侮蔑（マイナス）
5	憧憬（プラス）／劣等感（マイナス）
6	狂信（プラス）／殺意（マイナス）

## 恐怖の種類

暴力的な恐怖
自分の身体の異常、おびただしい血、無惨な死体、残酷な虐待の現場、悲惨な戦場など。
情動的な恐怖
執拗な想いが綴られた手紙や日記、異常な愛情、裏切りや失恋など親しい人の別れなど。
知覚的な恐怖
不気味な芸術作品、悲鳴や断末魔、裏切りの言葉、衝撃的な映像、食人などの禁忌など。
技術的な恐怖
先端技術の暴走、機械の誤作動や事故、自分の存在価値を奪いかねない新しい発明など。
知識的な恐怖
非人間的な知識、不都合な真実、国家的陰謀、自分の社会的身分の喪失、怪異について書かれた知識など。
怪異的な恐怖
幽霊、異世界の悪魔、学校の怪談、魔術や超能力、UFOやエイリアンのような超自然的存在や現象、能力など。